

# 平成16年度 病害虫発生予報 第3号

平成16年5月27日  
発表：福島県病害虫防除所

主要病害虫の発生状況と発生予想（多 やや多 並 やや少・少 対象外）

作物名	病害虫名	発生状況 (平年比)		予想発生量 (平年比)		備考
		県北	県南	会津	浜	
水稲	いもち病 (葉いもち) イ化粧モグリバエ イネミズソウムシ イネトロイムシ ニカメイコウ	-	-	-	-	ニカメイコウ 県南、会津および浜通り地方は平年同様に少ない。
リンゴ	斑点落葉病 腐らん病 キンモンホソガ アフラムシ類	-	-	-	-	
モモ	せん孔細菌病	-	-	-	-	
ナシ	黒星病 黒斑病 アフラムシ類 クワコナカイガラムシ	-	-	-	-	
オウトウ	灰星病	-	-	-	-	
果樹共通	カメムシ類 ウメシロカイガラムシ リンゴハダニ ナミハダニ	-	-	-	-	
トマト (夏秋)	葉かび病 灰色かび病	-	-	-	-	
キュウリ (冬春)	うどんこ病 ハダニ類 コジミ類 アザミウマ類	-	-	-	-	過去5年と比較
キク	白さび病 ハダニ類 アザミウマ類 アブラムシ類	-	-	-	-	過去5年と比較

予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は並発生要因であることを示す。

## 発生予報と防除対策

### A 普通作物

イネいもち病 (葉いもち)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや早			
	発 生 量	やや多	並	やや少	

#### 1 予報の根拠

5月中旬の最低気温が高く、補植用置き苗での葉いもちの発生が早まることが予想される。  
民間気象情報会社(ウェザーニューズ)によると、東北南部の梅雨入りは平年より早いと予想されている。  
天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並、降水量は日本海側で平年並(±)、太平洋側で平年並が多い(+)、日照時間は日本海側で平年並、太平洋側で平年並か少ないと予想されている。  
いもち病の育苗箱施用剤の使用割合が、会津地方は高く(-)、中通り、浜通り地方は低い(+)。

2 防除上注意すべき事項  
補植用置苗は、早期から発病して本田での伝染源になりやすいので、放置せず5月中に埋没処分する。

補植用置苗や本田移植株で葉いもちの発生が確認された場合は、直ちに薬剤防除を行う。

葉いもちの防除に水面施用剤を使用する場合は、平坦部は6月20日まで、山間部は6月25日までに施用する（メトミノストロビン剤は使用時期が異なる）。

イネヒメハモグリバエ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

5月4半旬の巡回調査では、産卵量は会津、浜通りが平年並み（±）、その他の地域では少ない（-）。

天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並と予想されている（±）。

2 防除上注意すべき事項

深水管理は本種の発生を助長するので、活着後は浅水管理を行う。

晚植地帯及び直播栽培等では、特に発生動向に注意し、防除を徹底する（福島県病害虫防除情報ファクスサービス「ファピイ」情報番号25番参照）。

イネミズゾウムシ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

5月4半旬の巡回調査では、食害の状況は平年並であった（±）。

2 防除上注意すべき事項

育苗箱施薬を実施していない水田や直播栽培ほ場で、要防除水準（100株に40頭以上の成虫が寄生しているか、ほぼ全葉に食害痕が見られる）に達した場合は、薬剤散布を行う（「ファピイ」情報番号25番参照）。

合成ピレスロイド系殺虫剤を水面施用する場合は、桑に飛散しないように十分注意する。

イネドロオイムシ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや早			
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

5月4半旬の巡回調査で、産卵が平年より早く確認された。

昨年の発生量は平年より多かったので、越冬成虫密度は平年より多いと考えられる（+）。

天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並と予想されている（±）。

2 防除上注意すべき事項

例年発生が多い山沿い地域や育苗箱施薬を実施していない水田および直播栽培ほ場で要防除水準（株に10頭以上の幼虫が寄生している）に達した場合は、薬剤散布を行う（「ファピイ」情報番号25番参照）。

合成ピレスロイド系殺虫剤を水面施用する場合は、桑に飛散しないように十分注意する。

ニカメイチュウ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	並			
	発 生 量	並	並（平年少発）		

1 予報の根拠

例年発生が見られる県北地方のフェロモントラップでの初誘殺時期、誘殺数は平年並であった（±）。

2 防除上注意すべき事項

6月に入ってから、葉鞘変色茎の発生初期に薬剤散布を実施する。

### その他病害虫の発生動向と防除対策

#### 黄化萎縮病

黄化萎縮病は、移植後10～50日の間に浸冠水した場合、感染、発病し被害をもたらす。特に、移植後30日頃の分けつ盛期の浸冠水で被害が大きくなる。

罹病すると株全体が黄化萎縮し、激しいと枯死する。

相双地区で、今回の台風2号の影響で水稻が浸冠水し黄化萎縮病の発病が懸念される場合は、メタラキシル粒剤を6kg/10a水面施用する。なお、この薬剤は使用時期が収穫90日前までなので、使用にあたっては十分注意する。

## 赤かび病（ムギ類）

赤かび病の発生した麦は有毒（デオキシニバレノール）であるので、飼料であっても用いない。収穫に当たっては事前に赤かび病の発生状況を把握し、被害が認められる場合は健全な穀場の麦と仕分けして、収穫・乾燥をする。刈り取り後は雨にあてないように注意する。共同乾燥施設においては、荷受け時にチェックを行う。赤かび病の被害粒が確認された場合は仕分けを行い別に乾燥する。

## B 果 樹 発生予報と防除対策

斑点落葉病（リンゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	並	-	

### 1 予報の根拠

各地方とも発生量は平年並であった（±）。

向こう1か月の天候予報では、東北太平洋側（県北・県南・浜通り地方）は曇りや雨の日が多く、降水量は平年並が多く、気温は平年並の見込みである（+）。また、東北日本海側（会津地方）は、気温、降水量とも平年並である（±）。

### 2 防除上注意すべき事項

本病は高温多湿条件で発生が助長されるので、平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照のうえ、散布ムラがないよう、また、防除間隔が10日以上開かないよう的確に防除する。

腐らん病（リンゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	多	並	-	

### 1 予報の根拠

県北・県南地方での発病は枝腐らんが主であるが、平均発病度、発病ほ場割合が平年より高まっている（+）。また、県北地方の一部で胴腐らんの発生も確認された（+）。

会津地方では他地方に比べ発病度が高い状況であったが、発病ほ場割合は平年並であった（±）。

### 2 防除上注意すべき事項

これから防除適期は6月上・中旬頃である。薬剤の使用にあたっては、平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照する。なお、枝幹部にも薬液が十分かかるようにする。

薬剤だけでの防除は困難であるので、耕種的防除法と組み合わせて防除する。病斑の早期発見・早期治療によって菌密度を低下させる。詳しくは、ファピィ31番、あるいは、うつくしま農林水産情報ネットホームページ（<http://www.aff.pref.fukushima.jp/>）を参照のこと。

果梗が残ると枝腐らんの感染部位となるので、霜害等による結実不良園地以外では、果梗が脱落しやすくなるよう早期摘果に努める。

堆きゅう肥を連用すると樹体の抵抗力が高まり発病を抑制する。

近隣に放任園がある場合、伝染源となるので伐採する。

キンモンホソガ（リンゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	早い			-
	発 生 量	少	並	-	

### 1 予報の根拠

発生量は会津地方で平年並であったが（±）、その他の地域では発生が認められなかった（-）。向こう1ヶ月の天候予報では、気温は平年並の見込みである（±）。

### 2 防除上注意すべき事項

発生時期は早まる見込みなので防除適期を逃さないように注意する。

県北地方での防除適期は、6月2半旬～3半旬と予測される。

徒長枝や二次伸長した新梢の幼葉に多く寄生するので、樹勢を見ながら徒長枝の整理を行う。

ア布拉ムシ類（リンゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	早い			-
	発 生 量	多	やや多	多	-

### 1 予報の根拠

発生量は、県北地方でやや多く（+）、県南地方で平年並（±）、会津地方で多かった（+）。新梢伸長の停止率が平年より遅れているため、今後も寄生量は増える見込みである（+）。

### 2 防除上注意すべき事項

発生が多い場合は、6月中旬頃に、ネオニコチノイド系殺虫剤を使用する。発生が多い場合は、6月中旬頃に、ネオニコチノイド系殺虫剤を使用する

せん孔細菌病(モモ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	-	-	-

1 予報の根拠

春型枝病斑の発生量は平年並であった(±)。

向こう1か月の天候は、降水量が平年並が多い予報であり感染に好適な条件となる可能性が高い(+).

2 防除上注意すべき事項

枝病斑は見つけしだいせん除し、園外に持ち出し適正に処理する。

ナシ黒星病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや少	-	少	-

1 予報の根拠

果叢基部の発病は、県南地方で局地的に多発したが、全般的にはやや少～少であった(-)。

向こう1ヶ月の天候は、曇りや雨の日が多く、降水量が平年並が多い予報であり感染に好適な条件となる可能性が高い(+).

2 防除上注意すべき事項

降雨により低温・多湿条件が続くと発生が助長されるので、平成15年版農作物病害虫防除基準(訂正版)を参照のうえ、散布間隔が10日以上開かないよう防除する。

果叢基部、葉、果実、新梢など発病した部位は摘除し、土中に埋めるか園外に持ち出し適正に処理する。

ナシ黒斑病(二十世紀)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	-	-	-

1 予報の根拠

幼果での平均発病果率は、平年並であった(±)。

今後1か月の天候予報では曇りや雨の日が多く、降水量は平年並が多い見込みであり、感染に好適な条件となる可能性が高い(+).

2 防除上注意すべき事項

本病は高温・多湿条件で発生が助長されるので、平成15年版農作物病害虫防除基準(訂正版)を参考し、防除間隔が10日以上開かないよう的確に防除する。また、多発の恐れのある園地では、散布ムラが無いように防除する。

小袋かけは薬剤散布後できる限り早く行う。

詳しくはファピイ33番、または、うつくしま農林水産情報ネットホームページ(<http://www.aff.pref.fukushima.jp/>)を参照する。

ア布拉ムシ類(ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期			早い	
	発 生 量	やや多		多	

1 予報の根拠

発生量は県北地方で平年並であったが(±)、その他の地方では多かった(+)。

今後1か月の天候予報では降水量は平年並が多く、新梢伸長が良好になると推察される(+)。

2 防除上注意すべき事項

発生が多い場合は、6月中旬頃に、ネオニコチノイド系殺虫剤を使用する。

クワコナカイガラムシ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期		早い	-	早い
	発 生 量	多	-	やや少	-

1 予報の根拠

各地方の発生量は、県北・県南地方では多く(+)、浜通り地方ではやや少なかった(-)。

今後1か月の気温は平年並の見込みである(±)。

2 防除上注意すべき事項

果樹の生育が早いため、第一世代の幼虫化期も早まる見込みなので、防除適期を逃さないように注意する。

耕種的防除として、6月にせん定切り口や新梢基部などに集まつてくる成・幼虫を対象に捕殺する。

オウトウ灰星病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	少	-	-	-

- 1 予報の根拠  
花腐れおよび幼果での発生が少なかったため、菌密度は低いと推察される（-）。  
今後1か月の降水量は、平年並が多い予報であるため、感染に好適な条件となる可能性が高い（+）。
- 2 防除上注意すべき事項  
成熟期に降雨日が多い場合は、平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照し薬剤散布を徹底する。

カメムシ類 (モモ、ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	早い			
	発 生 量		少	やや多	並

- 1 予報の根拠  
サクラの見取り調査によるカメムシ類の飛来数は、クサギカメムシが会津地方で並（±）、県北地方でやや少であったが（-）、他地方では確認されなかつた（-）。また、チャバネアオカメムシは浜通りで平年並（±）であった以外は、他地方では確認されなかつた。  
フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は、浜通り地方で増加の兆候が認められる（+）。  
県内全域でスギ花粉飛散量（毬果量）が前年より極端に減少すると予想され、果樹園へ飛来する恐れがある（+）。
- 2 防除上注意すべき事項  
カメムシ類の発生量がやや少ない見込みの地方でも、山沿いなどの園地では発生が多くなる場合があるので、ほ場をよく観察し平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照し適切に防除する。

ウメシロカイガラムシ (モモ・オウトウ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	早い	-		
	発 生 量	やや少	-		

- 1 予報の根拠  
発生量はモモでやや少であり、福島地域では平年並、伊達地域では確認されなかつた（±）。  
オウトウの発生量はで平年並であった（±）。
- 2 防除上注意すべき事項  
クワコナカイガラムシの項を参照。

リンゴハダニ (リンゴ、ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	早い			
	発 生 量	少	並	やや少	少

- 1 予報の根拠  
リンゴでのほ場割合、会津地方で平年並であり（±）、その他の地方ではやや少であった（-）。  
ナシでは、県南地方で発生がが多く、特に発生ほ場割合が高く（+）、その他の地方では少なかつた（-）。  
今後1か月の天候予報では、降水量は平年並が多い見込みであり、ハダニの増殖を抑制する条件である（-）。
- 2 防除上注意すべき事項  
密度が急増する時期（6月下旬～7月上旬）に密度が要防除水準（寄生葉率30%、または雌成虫1頭/葉）に達したら、平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照し殺ダニ剤を散布する。なお、園地条件等により発生が異なるので、観察してから防除する。  
薬剤の散布ムラは再発を早めるので、散布ムラがないよう、また、過繁茂にならないよう枝葉の整理をする。

ナミハダニ (リンゴ、ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	早い			
	発 生 量	少	並	少	やや少

- 1 予報の根拠  
リンゴでのほ場割合は、県南地方が多発（+）であった以外は確認できなかつた（-）。ナシでは、県南地方が多発（+）、浜通り地方が並（±）、県北地方では確認できなかつた（-）。  
今後1か月の天候予報では降水量は平年並が多い見込みである（-）。
- 2 防除上注意すべき事項  
リンゴハダニの項を参照。

## その他の病害虫の発生動向と防除対策

### 鱗翅目類（リンゴ、モモ、ナシ）

向こう1か月の天候予報によると、気温は平年並の見込みであり、主要な鱗翅目害虫の発生時期は今まで同様早まる見込まれる。5月12日現在の果樹試における防除適期は、モモハモグリガで6月2～3半旬、ナシヒメシンクイでは6月5半旬～7月1半旬となる見込みである。今回の調査では、モモハモグリガ、ナシヒメシンクイとも発生が確認できなかったが、発生が認められる場合には散布適期が遅れないよう、平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照し適切に防除する。また、ナシヒメシンクイの被害新梢（芯折れ）を見つけたら速やかに取り除く。

### C 野 菜

トマト 葉かび病 (夏秋被覆)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	-	並	-	-

#### 1 予報の根拠

5月下旬の巡回調査では、調査ほ場の一部で発生が認められたが、発生ほ場率、発病株率はともに平年並であった（±）。

#### 2 防除上注意すべき事項

本病は、草勢が低下すると発病しやすくなるので、肥培管理には注意する。

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策については、平成15年版県防除基準（訂正版）P.81を参照する。

トマト 灰色かび病 (夏秋被覆)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	-	やや多	並	-

#### 1 予報の根拠

5月下旬の巡回調査では、県南地方では平年と比較して発生ほ場率がやや高く（+）、一部ほ場で果実での発生が認められた。

天候予報によると、向こう1ヶ月の東北太平洋側の降水量は平年並が多い（+）。

#### 2 防除上注意すべき事項

本病は、20程度の温度と多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分行う。

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策については、平成15年版県防除基準（訂正版）P.81および「ファピイ」情報番号42番を参照する。

うどんこ病(冬春キュウリ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	-	並	-

#### 1 予報の根拠

5月上旬の巡回調査では、発生ほ場率および発生程度は例年並であった（±）が、一部多発しているほ場も認められた。

#### 2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策は、平成15年版県防除基準（訂正版）P.97および「ファピイ」情報番号50番を参照する。

ハダニ類(冬春キュウリ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	-	やや多	-

#### 1 予報の根拠

5月上旬の巡回調査では、例年と比較して発生ほ場率および発生程度がやや高く、一部多発ほ場も認められた（+）。

#### 2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策は、平成15年版県防除基準（訂正版）P.100および「ファピイ」情報番号50番を参照する。

## D 花き

白さび病(キク)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			

- 1 予報の根拠  
5月下旬の巡回調査では、県北、会津で発生が認められたが、発生ほ場率および発生程度は例年並であった(±)。
- 2 防除上注意すべき事項  
薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。  
防除対策は、平成15年版県防除基準(訂正版)P.271を参照する。

ハダニ類(キク)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

- 1 予報の根拠  
5月下旬の巡回調査では、例年と比較して発生ほ場率はやや高かった(+)。
- 2 防除上注意すべき事項  
薬剤散布にあたっては、抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。  
防除対策は、平成15年版県防除基準(訂正版)P.272および「ファピイ」情報番号61番を参照する。

アザミウマ類(キク)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			

- 1 予報の根拠  
5月下旬の巡回調査では、例年と比較して浜の発生ほ場率がやや高く(+)、一部ほ場で生長点付近にケロイド症状が認められた。その他の地域は一部ほ場で生長点付近にケロイド症状が認められたが発生量は例年並であった(±)。
- 2 防除上注意すべき事項  
薬剤散布にあたっては、抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。  
防除対策は、平成15年版県防除基準(訂正版)P.273および「ファピイ」情報番号61番を参照する。

### その他病害虫の発生動向と防除対策

#### 灰色かび病(冬春キュウリ)

5月上旬の巡回調査では、県内各地で発生が認められ、発生ほ場率および発生程度は例年並であったが、一部茎で発生しているほ場も認められた。

防除対策は、平成15年版県防除基準(訂正版)P.98および「ファピイ」情報番号50番を参照する。

#### ハダニ類(夏秋トマト)

5月下旬の巡回調査では、県南の一部ほ場で寄生が認められた。発生が見られる場合には防除を行う。防除対策については、「ファピイ」情報番号42号を参照する。

#### トマトハモグリバエ(野菜)

いわき地方の促成キュウリ、県南地方の施設トマトで寄生が認められた。ナスハモグリバエ、マメハモグリバエ等と肉眼では判別が出来ないため、薬剤の効果が劣る場合は病害虫防除所まで連絡して下さい。

防除対策については、「ファピイ」情報番号64号を参照する。

### 天候予報

向こう1ヶ月(平成16年5月21日仙台管区気象台発表)の平均気温は平年並、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多く、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か少ない見込みです。

## 病害虫防除情報ファクスサービス「ファッピイ」

情報分類	情報発表日	情報番号	情報提供機関
総合案内	2004年5月27日	0-0405-03	福島県病害虫防除所
情報ターム			枚数 作物名
病害虫防除情報ファクスサービス「ファッピイ」の総合案内		1	共通

### 情報の種類と情報番号

情報の種類	番号	発表日	情報の内容	枚数
総合案内	0	5月27日	情報の種類、内容、発表日を示す	1
発生予察情報			(本県で発表した最新の発生予察情報など)	
定期予報	10	5月27日	平成16年度発生予報第3号	8
定期予報	11	4月27日	平成16年度発生予報第2号	6
特殊報	16	10月15日	平成15年度発生予察特殊報第1号	2
"	17	5月27日	平成16年度発生予察特殊報第1号	3
防除情報			(病害虫の具体的な発生データや防除対策など)	
水 稲	20	3月 8日	水稻の育苗期病害防除対策について	4
"	21	4月 9日	田植までの病害虫防除対策(育苗箱施薬剤)	2
麦 類	22	4月12日	麦類の赤かび病防除対策	1
"	23	4月23日	麦類の赤かび病防除対策2	1
水 稲	24	4月28日	育苗期の低温による病害対策	1
"	25	5月10日	水稻初期害虫防除対策	3
大 豆	26	5月17日	大豆(は種時・は種前)の病害虫対策	1
果 樹	30	5月27日	果樹病害虫総合(5/27発表の情報をまとめてあります)	3
"	31	5月27日	リンゴ腐らん病の防除対策	2
"	33	5月27日	ナシ黒斑病の発生状況と防除対策	1
"	35	3月 5日	クサギカメムシの越冬状況	2
"	36	3月 5日	ハダニ類の越冬状況と防除対策	2
野 菜	42	5月27日	夏秋トマト(大玉)の病害虫の発生状況と防除対策	2
"	43	4月16日	イチゴの病害虫の発生状況と防除対策	2
"	50	5月14日	冬春キュウリ(施設)の病害虫発生状況と防除対策	3
花 き	61	5月27日	キクの病害虫の発生状況と防除対策	2
その他の	64	5月27日	トマトハモグリバエの病害虫の発生状況と防除対策	1
"	66	11月28日	イチゴにおける天敵を利用したハダニ類防除	2
"	67	4月12日	牧草におけるムギダニの発生状況と防除対策	1
農 薬	71	3月18日	平成15年10月~平成16年2月に登録が失効した農薬	6
"	76	11月25日	農薬の容器又は包装の誤表示について(その2)	4
"	77	11月 6日	住宅地等における農薬使用について	2
"	78	6月 6日	展着剤の使用について	1
"	79	8月27日	農薬の容器又は包装の誤表示について	5
気象情報	90	金曜夕方	金曜発表の1ヶ月予報、金曜発表の週間予報	2

は最新の情報であることを、はこれまでに発表した情報であることを示しています

### FAX の操作方法

お手元のFAXから「024(923)2010」に電話する。

ダイヤル回線の場合のみ「トーン(\*)」または「PB」ボタンを1回押す(入力信号をブッシュ信号に切り替える。ただし機種によって切り替えボタンが異なりますので、FAXの取り扱い説明書を参照ください)。

音声案内に従い<sup>注1)</sup>、取り出したい情報番号<sup>注2)</sup>に続けて、「シャープ(#)」を押す。

「ピー」の音がしてから、通信ボタン(「受信」や「スタート」ボタンなど)を押す。

受話器を置く。

注1) 音声案内中でも、情報番号の入力はできます。

注2) 情報番号がわからない場合でも、FAXの通信ボタンを押すだけで、総合案内の情報を取り出せます。

情報内容への質問や要望は病害虫防除所までご連絡ください。

TEL : 024-938-4242 FAX : 024-923-2012 e-mail : k fsm0301@sp.jppn.ne.jp

病害虫防除情報は、ファクスサービス(FAX : 024-923-2010)で取り出せます。また病害虫防除所ホームページ(アドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>)でも見ることが出来ます。